

1 学校教育目標

知・徳・体の調和のとれた、国際社会で信頼の得られる生徒の育成を目指し、次の目標を設定する。

- ・深く考え進んで実践する
- ・互いに尊重し平和な社会をつくる
- ・豊かな心と健康な体をつくる

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら学び、一人一人が目標をもって活動する学校＝「活力」ある学校 ・生徒との信頼関係を指導の基盤とする学校＝「笑顔」あふれる学校 ・保護者や地域から信頼され、愛される学校
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら意欲をもって学ぶ生徒 ・自他を尊重し、思いやりのある生徒 ・何事にも進んで行動する生徒
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の人格を尊重し、使命感に燃える教師 ・常に向上心を持ち、自らを高めようとする教師 ・一人一人の生徒に寄り添い、生徒の学力向上と能力開発に全力をつくす教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

【学校の現状】

- ◎学校について [よさ] 落ち着いた学習環境・生活環境の中で、教育活動・学校運営が行われている。[課題] 安定した入学者数の確保が課題である。
- ◎生徒について [よさ] 素朴で素直な生徒が多い。何事も一生懸命取り組む。[課題] 基礎学力の定着と学習意欲の持続、家庭学習の習慣を身に付ける。
- ◎教師について [よさ] 一人一人の生徒に粘り強く丁寧な指導を行っている。[課題] 若手リーダーの育成と授業改善を組織的に取り組む。
- ◎保護者・地域について [よさ] 地域は学校教育に対する支援・協力を惜しまない。[課題] PTA 活動、保護者会等の出席者数などが減少している。

【前年度の成果と課題】

- 基礎学力の定着
基礎学力が未定着の生徒に対する放課後補充教室・朝学習・3教科の学習コンテストの取組み・家庭学習の取組み等、個に応じた事後の取組みを丁寧に行ってきた。区学力調査では、通過率 59.5% 正答率 63.1% であり、昨年度の活用調査結果をほぼ維持する現状である。学力層の下位 C・D 層の割合を減らすため、継続して定着度に応じた補充教室等の取組みを強化する。また、ICT 機器を活用した学習活動を推進し、情報活用能力の定着を図る。
- 小中連携
学力向上策を重点とした「9年間を見据えた学びづくり」の連携事業を積極的に行う。その成果や課題を共有し、地域から信頼される学校を創る。
- 心の教育の充実
学校の一員・地域の一員としての自覚や責任の育成に向けて「心の教育」を重点に教育活動を推進する。生徒会の主体的な活動を中心に「いじめゼロ宣言」・生徒会によるいじめアンケートの実施など、いじめ撲滅の取組みを行った。東京都教育委員会の「心のつながりプロジェクト」参加等、今後も学校・家庭・地域と連携協力し、日常的な生徒とのかかわりを大切に、互いの信頼関係を重視した教育活動を実践する。

4 重点的な取組事項						
	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R2	R3	R4	R5	R6
1	学力向上アクションプラン＝「基礎学力の定着」	○	○	○	○	○
2	小学校との連携＝「9年間を見据えた教育活動の接続」	○	○	○	○	○
3	心の教育の充実	○	○	○	○	○
4						

5 令和4年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン＝「基礎学力の定着」							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)	実施結果 (通過率結果)		コメント・課題			達成度 ◎○ △●	
基礎学力の定着と向上を図る		年度末到達度確認テスト ：正答率 60% (令和4年度区調査：通過率 60%)	令和4年度区調査 ：通過率 62.4%	令和5年3月実施 ：正答率 57.5% ：通過率 50.9%	令和4年度 区調査結果 ○正答率国語 70.3% ○通過率国語 62.9% 数学 57.1% 数学 62.9% 英語 62.3% 英語 61.3% ※学習の定着度を確認し、未定着部分の補充を 個々の状況に応じて、各教科行う。定着状況と 具体的な取組は6(1)を参照			○	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクション プラン	対象 ・ 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度◎ ○△ ●

1 継続	① 放課後 補充教室 ② サマー スクール	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年 ・国語 ・数学 ・英語 ・社会 ・理科 ・授業理解度：下位及び中位生徒 	<放課後> 月～金まで 25分間 15:35-16:00 <夏季休業期間7日間>	【目的】 ・学力下位・中位生徒の基礎学力の定着 【内容】 ・個々のつまずきに合わせて個別指導 【指導体制】 ・全教員 ・学習ボランティア 【使用教材】 ・AIドリル ・プリント教材他	定期考査 ・区調査 再活用：7月 ・到達度確認テスト：3月 ・課題分析（振り返り） 確認テスト <サマースクールで実施> 確認テスト	・区調査 通過率60% ・年度末到達度確認テスト 正答率60%以上	<R4>区調査活用再調査7月 ・正答率 国語74.4% 数学56.6% 英語80.3% <u>平均正答率 74.4%</u> ・通過率 国語75.2% 数学81.7% 英語85.7% <u>平均通過率 80.8%</u> <3月到達度確認テスト> <u>平均正答率 57.5%</u> <u>平均通過率 50.9%</u>	○国語・数学・英語の各教科を隔週実施。 ※確認テスト実施。到達度確認テストでは、学力層D層からC層に引き上げが課題であったが、個人差が大きく、補充を継続する。AIドリル活用を推進する。	○
2 継続	③朝学習 ④学習コンテスト	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年 ・国語 ・数学 ・英語 	<国・数・英> 隔週ごと実施 8:30～8:35 ※国：朝読書の取組みあり <国・数・英> 1教科：30分	【目的】 ・基礎学力の定着 【内容】 ・国・数・英：合格点を学年ごとに設定 【指導体制】 ・問題作成は教科担 【使用教材】 ・AIドリル ・プリント教材他	・各小テスト ↓ ・各科コンテスト ※出題内容の工夫と改善 英語：【単語と基本文】	・合格率80%以上	<R4>（合格率） 国語 87.2% 数学 74.0% 英語 56.5% 合格率平均⇒72.6% <R3> 合格率平均⇒73.5% <R2> 合格率平均⇒69.5% <R1> 合格率平均⇒56.6%	○取組の状態がよいこと、合格点にもう少しで達成する生徒の割合は少しずつ、上昇している。 次年度も朝学習と連動させ実施。 ※各科検定の受検率も向上させる。	△
3 継続	⑤家庭学習の定着強化月間	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年 ・全教科 	<年4回> 6月・9月 11月・2月	【目的】 ・基礎学力の定着 【内容】 ・「家庭学習強化月間」 ・各教科→各教科でチェック 【指導体制】 ・全教員 【使用教材】 ・各教科の教材他	・家庭学習の定着取組 ・意識調査	・意識調査「家庭学習に毎日取り組んでいる」80%以上	※保護者アンケート 「毎日勉強する習慣をつけさせる⇒R3:67.0%R4:64.0% 「家庭学習に自主的に取り組ませている」 ⇒R3:61.0%R4:59.0% ※生徒アンケート 「家庭学習に毎日取り組んでいる」R4:66.0% ・30分未満:23.0% ・30分以上:33.0% ・1～2時間:36.0% ・2時間以上:8.0%	<家庭学習の定着度> ○家庭学習習慣の定着を図るために取り組んでいる。自学自習の習慣化をねらいに学習方法やノートの使用方法を全員に指導し取り組んだ。一定の学習時間確保と個人差の解消が課題である。家庭と協力して粘り強く指導を継続する。	△

4 継続	「検証と対策」 ⑥ 授業力向上と授業改善	・全学年 ・全員	<毎日>	【目的】 ・教員の授業力向上 ・「分かった」「できた」が実感できる授業の実践 【内容】 ・生徒授業評価 ・管理職の授業観察による指導・助言 ・タブレットや大型ディスプレイ等を活用した学習活動の推進(一人一端末タブレット活用)	・定期考査 ・区学力調査 ・小テスト ・生徒の授業評価	・生徒の授業評価 a「わかりやすい」b「理解できる」80%以上	<生徒授業アンケート> a「わかりやすい」全教科平均 91.8% b「理解できる」全教科平均 82.1% a・b 回答平均 87.0% ※「楽しい」肯定的回答全教科平均 83.7%	○教員の検証意識→問題点を解決しようと努力している→対策・改善策を検討し課題を明確にする。 ⇒改善プランの具体的な提示。 ※授業観察 3～5回	○

重点的な取組事項－2		小学校との連携＝「9年間を見据えた教育活動の接続」			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
・小学校との連携を通して、学習面や生活面で成果が実感できる		・小中合同研修会 年9回実施 (国語合同研修会 年3回実施) (AIドリル活用推進 算数・数学)	・全体での研修9回実施 (国語合同研修3回実施)	・生活面の落ち着きに成果が表れている。学習面の連携が課題である。引き続き、連携を強化する。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
小中合同研修会の充実	・年9回の合同研修会 重点教科 国語科 ↓ (合同研修会 3回) ・AIドリル活用推進	・連携推進委員(校長・副校長・教務主任・研究主任他1名)が連携を推進 ・教育課題について研修会の実施	・集合研修の実施が制限されたがICT機器等を活用して連携事業を実施。 ・各校の児童・生徒の様子を情報共有するなど、実態に即した内容や指導方法を改善工夫した。(国語)	・教科連携による学力定着と9年間を見通した学習の場、主体的な学びを育てる学習活動づくりに向けて、さらに連携を深化させる。 ・児童生徒の交流、中学校授業体験を教員派遣型で実施した。	○

<p>近隣小学校や保護者・地域への広報活動の充実</p>	<p>・小学生向けの学校だより発行：年4回 ・地域・保護者の肯定的評価：80%</p>	<p>・生徒会による学校紹介ビデオ制作他 ・近隣小学生向け学校だより（6月・10月・12月・2月） ・ホームページの更新を月4回以上行い、学校の様子を発信</p>	<p>・新入生保護者説明会で学校紹介ビデオを上映した。 ・小学生向け学校だよりを年5回、作成し近隣小学校へ配布した。 ・ホームページで学校の様子を発信。 ※保護者アンケート 「学校は生徒や学校の様子を伝えている」⇒93.0% ※地域アンケート 「学校は生徒や学校の様子を伝えている」⇒100%</p>	<p>・小学校向けの学校だよりを年5回発行。 ・学校評価アンケートは達成できたが、ホームページの「最近の出来事」等の更新が十分でなかった。できる限り改善したい。 ・学校公開週間等の実施により、生徒の様子を実際に見ていただくことができた。 ・開かれた学校づくり協議会主催によるペットボトルロケット体験等、地域への広報活動充実を図った。</p>	<p>○</p>
------------------------------	---	---	--	--	----------

重点的な取組事項－3		心の教育の充実			
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度	
<p>・自尊感情を育成し、成就感・達成感を高める。 ・人権を尊重する意識の向上</p>	<p>・意識調査 ①「先生や友人から認められている」 ②「人に思いやりの気持ちをもって接している」 肯定的回答 80%以上</p>	<p>※全校生徒アンケート ①71.0%②87.0% 肯定的回答①80%以上を達成出来なかったが②は達成できた。</p>	<p>・様々な教育活動を通して自尊感情を育成し、互いに尊重する意識が向上している。</p>	<p>◎</p>	
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
<p>人権にかかわる指導・対応、いじめ防止の指導の充実</p>	<p>・教員及び生徒の人権に関する肯定的な評価が80%以上</p>	<p>・生徒会が主体となるいじめ未然防止の取組（アンケート年3回など）を実施 ・道徳科ローテーション授業を実施 ・人権やいじめに関する校内研修を年2回以上実施 ・相談活動（面談等）実施</p>	<p>・いじめゼロ宣言を中心として、生徒会の取組が成果をあげた。 ※生徒、保護者、地域アンケート 生徒 89.0% 保護者 87.0% 地域 100% 教職員 ・各学年担当教員による道徳科ローテーション授業が定着した。</p>	<p>・人権尊重の意識を学校全体で醸成し、引き続き、道徳科授業の充実、校内の相談活動を推進する。 ・生徒会が中心となり、「いいところ探し」を全校で取り組んでいる。肯定的な他者理解を通して、互いを認め、尊重し合う意識を向上させたい。</p>	<p>◎</p>

ボランティア活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> 一人1 ボランティア参加 生徒、保護者、地域の肯定的評価 80% 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者や地域と連携し、活動場所を確保する。 生徒会活動の一環の取組とした計画的・組織的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 開かれた学校づくり協議会と連携し「花いっぱい運動」等を実施。※ボランティア地域活動 10 回 ※生徒、保護者、地域アンケート 生徒 91.0% 保護者 89.0% 地域 100% 	<ul style="list-style-type: none"> 地域と連携協力し、全校で取り組むことができた。自己肯定的感や自己有用感を高めることができた。一人1 ボランティアは達成できなかった。 地域の善行表彰では、地域から「感謝の声」が寄せられ4名が表彰された。 	○
特別活動（生徒会）の充実	<ul style="list-style-type: none"> 各学級一人一役の係として関与。生徒の肯定的な回答 80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 各学級で一人一役の係をもち、係活動を通して達成感や充実感をもたせる。 生徒と教員が互いに挨拶「声かけ運動」を行い、日常の活動を認め合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は少しずつ制限が緩和された中で学校生活を送る状況ではあったが様々な場面で協力し係活動や学校行事を実施。 ※生徒、保護者、地域アンケート 「学校生活を楽しく過ごしている」⇒生徒 89.0% 保護者 89.0% 地域 100% 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会朝礼、生徒会だよりの発行。足立区立中学生代表生徒交流会に参加し、全校生徒に報告する等、主体的に生徒自身が活動する意欲を向上させる。 「あいさつ運動」「ユニセフ募金」「いいところ探し：特別表彰」「いじめゼロ宣言」「ベルマーク回収」等、生徒会活動をより充実させる。 	○

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

○重点的な取組事項－1 学力向上「基礎学力定着」

・区の学力調査の通過率では昨年度の 59.5 から 62.4%と 2.9%上回りました。3月の到達度確認テストでは、正答率 57.5%通過率 50.9%と目標値を達成することができなかった。各教員の授業力を向上させるとともに教科で指導方法等を改善し、基礎学力の定着をさらに推進する。

<学力調査による教科別の課題及び改善策>

【課題】・国語：全学年で平均正答率は目標値を上回った。学習意識調査の「1ヶ月に本を2冊以上読む」の校内平均が、昨年度より 0.7 ポイント下回っており、「読むこと」「書くこと」が課題とされる一因である。特に漢字の読み書きや文法の理解、問いを正確に捉えて答える力に課題が見られる。

・数学：全学年で平均正答率は目標値を上回った。「データの活用」において、2年生は 6.1 ポイント、3年生は 12.7 ポイント区の平均正答率より下回っている。また、「思考・判断・表現」の観点について、2年生は 12.5 ポイント、3年生は 15.0 ポイント下回っていることから、読み取ったデータより思考判断し、応用していく力を養うことが課題である。

・英語：平均正答率の目標値を1年生は 9.3 ポイント、3年生は 8.4 ポイント上回った。2年生は目標値を 0.9 ポイント下回った。「書くこと」において、2年生で 10.2 ポイント、3年生で 7.5 ポイント下回っているため、文法の知識と単語力の向上が課題である。

【対策】・国語：授業では教員の発問に対して正確に捉え、答えられるよう指導する。また、説明的文章の要約などに力を入れ、内容を整理して書く力がつくよう指導する。補充教室では、漢字の読み書きや文法を重点的に指導する。繰り返し復習することで知識の定着を図る。学級文庫等、環境の整備を行う。

・数学：授業では、回答を導くための過程をきちんと途中式が記入できるように指導する。習熟度別少人数授業で、個々の苦手とする内容について個別に指導する。AIドリル活用を推進する。補充教室では、演習問題を繰り返し解き、重点的に見直し定着を図る。

・英語：授業では、帯活動で既習事項の確認テスト、ドリルを通年実施する。繰り返しの学習を通して定着を図る。補充教室では、知識が定着していない生徒を個別で指導し、授業での課題に取り組む。達成度テストを実施し、定着度を図り指導改善を行う。

※「家庭学習強化月間」を行うなど、生徒の意欲を喚起し、保護者への意識啓発と学習課題の工夫を図り、家庭学習習慣の定着を図る。

○重点的な取組事項－2 小学校との連携「9年間を見据えた教育活動」

・一小一中の連携に加えて、学区域小学校の6年生にむけて「学校だより」を年5回発行し、小学校との連携を広げ、さらに円滑な接続を図るために広報活動の充実を図った。充実した教育活動を柱に、小中連携AIドリル活用推進校として、学習の連続性と教科指導におけるギャップ解消を課題に取り組む。

○重点的な取組事項－3 心の教育の充実

・生徒会では「いじめゼロ宣言」を発信しアンケート調査を行うなど、生徒のいじめ防止に対する意識は高い。このような意識がいじめの芽を小さいうちに発見し、未然防止につながっていくものとする。来年度もこのような生徒主体の取組を柱に心の教育に取り組む。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

○保護者や地域の皆様には、新型コロナウイルス感染拡大防止にご理解とご協力を賜りましてありがとうございました。小規模校の利点を生かして、生徒一人一人に丁寧できめ細かい指導を行ってまいります。また、学校生活の基本である授業は、生徒と教員の信頼関係が大切であり、そのためには授業規律の確立、教育環境の整備、教員の授業改善がより求められます。保護者や地域の皆様には、学校評価アンケートにご協力いただき、貴重なご意見をいただきました。ご意見は全教職員と共有し、学校運営に生かしたいと考えております。学校の様子は、<学校だより><学年だより><学校ホームページ>等でお伝えし、ご協力やご支援をお願いしてきました。学校ホームページの更新も継続してまいります。誠にありがとうございました。

(3) その他(学校教育活動全般について)

○落ち着いた学校生活を維持するため、個々の生徒に寄り添い丁寧に関わりながら教育活動を進めてまいります。小規模校の強みを生かし、生徒一人一人との関わりを密にし、個に応じた指導を充実させます。

○基礎学力の定着と学習意欲の向上を重点としながら、学力を向上させるために教職員が一丸となり「チーム竹中」「地域の竹中」として保護者・地域との連携を強化します。そして、何事にも真面目に取り組む生徒の特徴を生かして様々な活動にチャレンジさせ、多くの体験を計画的に取り組ませることで、理解力・思考力・表現力・判断力の育成と向上を図ります。学校生活で自分の良さや力を発見し生かせるような機会を設けることで、社会に貢献する心豊かな生徒の育成を図っていきます。